

# 令和5年度 赤穂東中学校区小中連携教育 活動記録

## 1 令和5年度 小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

## 2 赤穂西中学校区の活動報告

### (1) 尾崎小学校

○実施日：令和5年10月18日（水）

○単 元：6年生算数科「比例と反比例」

○事後協議

- ・ 比例と反比例の見方については、中学校でも同じ見方を学習するため、小学校での学習内容が分かることで、中学校での声かけも増やすことができる。（「正の見方」「負の見方」など）
- ・ 中学校に比べ、小学校では問題を解く量が少ないため、授業の内容によって発展問題などに、適切に取り組むことが必要である。
- ・ 中学校の児童に比べ、授業中のつぶやきや反応が多く見られた。来年、中学校に入学する児童の雰囲気を理解することができたため、来年の中学校での指導に生かすことができる良い機会になった。
- ・ 理解が難しい児童生徒には、ヒントカードを用いた支援をするなど、子どもの実態に合わせた支援が必要である。
- ・ タブレット等を効果的に活用した授業展開が見られた。



## 3 まとめ

小学校で研究授業を行ったことで、進学先である中学校の先生方に児童の様子や授業中の雰囲気を知っていただく良い機会となった。事後検討では、授業中の発言やつぶやきから、理解の難しい児童のことを知ってもらうことができ、具体的にどんな支援をしているのかを共有することができた。さらに、専門性の高い中学校の先生方と検討したことで教科に対する理解を深めることができた。また、タブレットを活用した授業を展開したことでタブレットの使用方法に関する情報交換もすることができた。児童理解、教材研究、ICTの活用促進の面で、さらに授業を通じた小中連携を進めていきたい。